



## ー クラブライフが心とからだと暮らしを変えるー

「元気なとやま」をつくるためスポーツクラブによる生き生きとした暮らしを提案します。

日本におけるスポーツの大切さを伝え、サポートしていきます。



NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ

## 巻頭インタビュー Interview

サッカーJ1リーグで3位(6月30日現在)と好調なアルビレックス新潟。J1昇格4年目の今季も、ホームゲームに毎試合4万人のサポーターを集め、スタンドはチームカラーのオレンジ色に染まる。中野幸夫社長から、クラブの歴史や現状を聞いた。(07年6月30日、富山テレビ「ACTクラブ」視察団への講演より抜粋)

### アルビが新潟を変えた



[www.albirex.co.jp/](http://www.albirex.co.jp/)

(株)アルビレックス新潟

代表取締役社長 中野 幸夫



Yukio Nakano

#### ■ 険しかった道のり

「新潟イレブン」として北信越リーグで戦っていたチームが、94年、Jリーグを目指して「アルビレオ新潟」と改名した。93年、日韓W杯の開催地として新潟が選ばれたのがきっかけだった。日本のスポーツは、学校と企業に支えられて発展してきた。プロサッカーチームの経営が、成り立つ見通しは立たなかった。当初の観客は1試合4千人ほど。戦力的にも、北陸電力とYKKという企業チームの壁を突破することは容易ではなかった。

99年、Jリーグの2部制導入にともない、J2に参入できた。01年にスタジアム(ビッグスワン)が完成し、観客動員に弾みがついた。03年にJ2で優勝し、04年からJ1で戦っている。Jリーグは15年目になり、クラブの経営規模にも差が開いてきた。最大の浦和が約75億円、新潟は約30億円。J2には5億円で経営しているところもあり、それぞれ苦労している。

#### ■ 新たな“新潟名物”

観客数は現在、1試合平均4万人で推移している。当初は、スタジアム先行のチームだった。ビッグスワンの建設費用は約500億円。国民体育大会(09年)の開催も考慮されて建設が決まったが、この巨額投資が有効か否かという議論の中で、当時は「無駄使い」ともたたかれた。今では誰もそうは言わなくなってしまった。

「4万人のスタジアムがいつも満員である」ことがセールスポイントになっており、満員にする努力を続けている。シーズンパスで約2万人、前売りや当日券を含めて3万5千人までいくので、残り5千人を招待する。招待券をばら撒くのではなく、「見たことがない人を探し、行き渡るよう心



掛けている。町内の回覧板なども活用している。一度、スタジアムの雰囲気を味わってもらい、リピーターになってもらう戦略だ。

当初、4万人を集めることは無理だと思ったが、あきらめずにどうしたら満員にできるかを考えた。満員にしてみたら、またお客様が来るという好循環が生まれた。「満員のスタジアムで、みんなで応援する楽しみ」が、ステータスにまでなるとは、やってみるまで思いもよらなかつた。県外からの来場も多く、新潟名物のひとつになった。

#### ■ 地域の夢を表現する

以前「裏日本」と呼ばれていた地域のわたしたちが、東京や大阪といった大都市のチームと互角に戦っている。地域のアイデンティティーを変える力がスポーツにある。チームを通じて、地域を表現できる。現在、J1は18、J2が13チームあるが、J2は10年までに18チームに増やす計画があり、栃木や熊本、岐阜など多くの地域が名乗りを挙げている。もし富山にもチームができたなら、みなさんの地域でかなえた夢を託し、表現してほしい。

アルビレックスは、幅広い年代に支持されている。おじいちゃんが孫の手を引いて来場する姿など、いろんな光景をみることができる。チームが勝った翌日には、コンビニのスポーツ新聞が午前中に売り切れる。「たかがサッカー、されどサッカー」で、多くの人がさまざまな期待をかけてくれていると実感している。産業としても新分野を拓いた。観戦してもらえば、満足してもらえると確信している。

# 2006 事業報告

TSC2年目の昨年度は、会員向けプロダクトである「U12・U15・U18・UP30各サッカースクール」「サッカーを知ろう!本当のサッカーを楽しむ」「パワーヨガ教室」などの各コースに加え、富山でのJクラブ設立に向けた「草の根支援策」として、「Jリーグ観戦ツアー」「県内JFL観戦ナビゲーション」を実施し、県民意識の向上に微力ながら寄与してまいりました。また岩瀬スポーツ公園指定者管理バックアップ事業として「スポーツターフ講習会」や「イタリアユースサッカークリニックinとやま2006」を主催または協力させていただきました。さらに富山県体育協会主催で行われた「スポーツマネジメント講習会」への共催など、多くのイベントをTSCミッション・ビジョンに基づき実施することができました。これも正会員・賛助会員の皆様、関係各位の皆様のおかげです。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

今回は5月下旬に行われました、定期総会での「財務報告」ならびに「事業報告」をさせていただきます。また紙面には正会員2名様より昨年度の感想を掲載いたしております。(TSC事務局)

## 2006 年間行事

### スクール事業

■4月～3月

種 目:サッカー教室、パワーヨガ教室、サッカーを知ろう

活動場所:富山県室内ドーム・山田総合体育館・富山電気ビルディング他

### 日本サッカー協会特別講演

■5月27日(土)

講師:真田 幸明氏(日本サッカー協会CHQ登録普及部 部長)

演題:「スポーツクラブが地域を変える 元気な地域が日本を変える」

\*また南木氏より総合型地域スポーツクラブの視点より講演いただいた。

### U-18スクール大会参加

■4月30日～9月3日

中学部活動とのクラブ申請が成立し、「富山県U-18リーグ戦」に参入。T3に所属し、リーグ戦7位となつた。

### Jリーグ設立支援活動

■4月～3月(通年)

私たちの目標に準じ、富山県サッカー協会にて「専任理事Jクラブ担当」として支援した。

### JFLホームゲーム観客動員支援・観戦ナビゲーション

■4月～12月

### Jリーグ設立支援 Jリーグ観戦ナビゲーションツアー

■ 7月19日 新潟vs浦和(東北電力ビックスワンスタジアム)

■ 8月23日 浦和vs新潟(埼玉スタジアム)

■ 11月11日 浦和vs横浜Fマリノス(埼玉スタジアム)

■ 3月11日 新潟vs浦和(東北電力ビックスワンスタジアム)

### 岩瀬公園指定者管理バックアップ事業 スポーツターフ講習会

■9月29日～30日

場所:岩瀬スポーツ公園・富山県総合体育センター

### 会報創刊

■11月1日 創刊部数:11,000部

### イタリアサッカーカクリニックinとやま2006

■12月15日(金)～16日(土)

場所:岩瀬スポーツ公園・県民会館 講師:河村優

### 指導者養成事業・C級ライセンス受講

■1月14日～3月

受講者:TSCサッカースクールコーチ(田中・出原)

### ホームページリニューアル

■1月スタート アクセス数:18797(8月6日現在)

### スポーツマネジャー研修会共催・主催富山県体育協会

■2月17日(土)場所:小杉総合体育館

坂口氏をTSC企画にて講師でお呼びし、研修会をサポートした。

### 2006年度会員数推移(3月15日現在)

■総入会者数 103名

■現在正会員 74名(複数コースの重複会員を含む)

### 理事会

■第1回 7月 末日 サンシップ

■第2回 10月 3日 サンシップ

■第3回 2月 25日 サンシップ

### 総会

■3月25日 県民会館 18:00～

## 2006 年度特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

自 平成 18 年 4 月 1 日 至 平成 19 年度 3 月 31 日 (単位:円)

経常収支の部		正味財産増減の部	
[ 経 常 収 入 ]	3,030,910	[ 正味財産増加の部 ]	
[ 事 業 費 ]	2,163,924	当 期 収 支 差 額	149,612
[ 管 理 費 ]	717,374	正味財産増加の部 計	149,612
経 常 収 支 差 額	149,612		
<その他の資金収支の部>		[ 正味財産減少の部 ]	
[ その他資金収支差額 ]	0	正味財産減少の部 計	0
当 期 収 支 差 額	149,612	当 期 正味財産增加額	149,612
前 期 繰 越 収 支 差 額	385,941	前 期 繰 越 正味財産額	415,941
次 期 繰 越 収 支 差 額	535,553	当 期 正味財産 合 計	565,553

## 2006 年度特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

平成 19 年 3 月 31 日 現 在 (単位:円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
[ 流動資産 ]		[ 流動負債 ]	未 払 金 79,199
(現金・預金)		前 受 金 68,500	
普 通 預 金	687,252	流 动 负 债 計 147,699	
現金・預金 計	687,252	負 債 の 部 合 計 147,699	
(売 上 債 權)		正味財産の部	
未 収 金 26,000		[ 正味財産 ] 正 味 財 産 565,553	
売上債権 計 26,000		(うち当期正味財産増加額) 149,612	
流動資産合計 713,252		正 味 財 産 計 565,553	
資産の部 合計 713,252		正味財産の部 合計 565,553	
		負債・正味財産の部合計 713,252	

# Mission Vision

### TSCのミッション

「クラブライフが心とからだと暮らしを変える」をモットーに、「する・見る・話す・働く・支える」の喜びを感じることができ、自ら楽しみ、夢を育くむことに貢献します。

### TSCのビジョン

■Jリーグクラブつくりを地域クラブの立場から支援することによって、子供から大人まで県民に夢と感動を与えます。

夢を語れる子供、若年層・高齢層との交流の場を増やすため、クラブライフによる喜びをJリーグクラブ設立にも反映させ、県民全体の一体感を感じることによって、地域社会や家族間での共通話題を増やし、全世代に夢を育みます。

■スポーツによって「元気とやま」を創造し、富山県を大きくアピールします。富山の知名度を上げるために、スポーツ選手の育成やJリーグクラブ設立に寄

与するとともに「元気で健康なとやま」のイメージを全国に伝えます。県内で人材を育て活用することで全国的・世界的なニュースを発信します。

■生きかいのある高齢社会や青少年がのびのびと育つ環境を提供します。

中・高齢者への生きがいと健康の推進に寄与します。また核家族化がすむ中、異年齢集団での交流を増やし、子供の心身の教育に寄与します。そして青少年が身近に「夢」を持ってスポーツ活動に取り組むことを可能にし、支えあいながら克服する素晴らしさを体感できるようにします。

■スポーツ文化の高揚に寄与します。

誰もが気軽にスポーツクラブを楽しめるよう地域住民の手でつくりあげることによってスポーツを常に携帯し、クラブライフを生活の一部とすることが可能となります。

■豊かな地域コミュニティの形成を図ります。

様々なスポーツコミュニティを形成することによって、県民の心地良いコミュニケーション活動の場、情報発信源として地域を活性化します。



Mitsuru Yasukawa

星槎国際高等学校出身  
安川 満  
元U18スクール会員

## 生涯サッカーを続けたい

私が通っていた星槎国際高校は、週二日という登校スタイルのため、自分自身のペースでやりたいことを見つけ、いろいろなことにチャレンジすることができる学校でした。「登校日以外の残りの5日をいかに有効活用するか」が大切だと考え、私は高校2年生からこの「富山スポーツコミュニケーションズ」に入会しました。

サッカークラブは以前から挑戦したいと思っていた、高校にはサッカー部がなかったので、大好きなサッカーを少しあきらめていましたが、このクラブに入って県U-18リーグ戦にも出場することができました。また、たくさんの仲間が増え、友達の輪も広がりました。サッカークラブとアルバイト、学校との両立は大変でしたが、自分が本当に好きでやりたかったことだったので、一生懸命頑張って2年間やり遂げることができ、充実した高校生活を送ることができました。

この春から短大へ進学しましたが、一日も早く学校のスタイルに慣れ、富山スポーツコミュニケーションズへ戻ってきて、生涯サッカーを続けたいと思っています。

ぜひ、皆さんも興味のあることや挑戦したいことを見つけて、実行して欲しいと思います。



## 子供の向上心をサポート

小学校4年生の当時、上級生チームのゴールキーパーをしていた我が子は、試合のたびに責任を感じもっと上手くなってチームの為に頑張りたい、と言っていました。

そんな時、北日本新聞のTSCの記事に目が止まり、17年4月からスタートするサッカースクールにゴールキーパーコースがあることを知りました。最初は少し躊躇していましたが、ポジショニングやキャッチング等の専門的なキーパー指導が受けたいとチーム監督へ相談しました。監督は、「自分の成長の為にもチームの為にも大いに励んでください。」と自ら学びたいと言った気持ちを尊重してくださいました。それからは、チーム練習とスクール練習の両立でしたが、キーパーに加えフィールドもやりたいと言い出し、子供にとっては専門技術を学ぶことはもちろん、さまざまなチームから来ている子供たちとの交流が何より楽しみでもあり刺激もありました。チーム監督からも、サッカーリーグ時は敵であっても皆サッカーを愛するサッカーファミリーと教えられていた為、子供は同じ気持ちを持つ仲間の輪が広がることを大変

喜んでいました。

体が大きい為、6年生になってからは小学生の練習では物足りなくなり、中学生、高校生の方々に混じってU-18スクールでの練習もさせてもらいました。小学生が高校生と一緒に練習出来る環境など、他

ではなかなかあり得ません。自分よりスピードも速く技術も上位、体も大きい人達の中でプレイするのは、怪我の怖さや自信喪失にもなり得ないと心配しましたが、それどころかチャレンジする楽しさと年上の方々からの励ましやアドバイスの言葉が喜びとなり、高校生や大学生コーチとの会話も弾みいつ間にかこのスクールで社会性を身につけていったようです。

この経験のおかげで中学校へ進む時期が近づいてきた頃、本人はより高いレベルへの挑戦を求め、クラブチームへの入会を決めました。

親としてはベンチ入りすることすら難しいのに…と心配しますが、本人は下手な自分にとって必死で頑張らなくてはならない環境であること、いろいろな方々との出会いが広がることも、

新たな経験が出来ることも、楽しくてならない…と言います。このように前向きな考え方方が出来るようになつたのも、小学校時代のチーム監督や指導者からサッカーと仲間を愛するように教えて頂いたこと、TSCで自分よりレベルの高い人にチャレンジする意義や大切さを教わり、あらゆる年齢層との交流が出来るようになったことが大きいと感謝しております。



## クラブで広がった視野

また、現在中学3年生の長男も部活動と当スクールの両立をしていますが、所属する中学校サッカー部が当スクールのU-18チームとの「クラブ申請」を行っている為、現在高校年代の

TSCで過ごしてみて…

舟見 智子

大会であるTリーグに出場することが出来ます。中学生にとって高校生の大会で試合することは大変貴重な経験であり、自分をレベルアップするための機会となっています。

親子で当クラブのJリーグ観戦ツアーやJFL試合観戦に足を運ぶことも多く、最近ではサッカーは生活の一部です。ある時、白髪の方々が真夏の炎天下にサッカーをされているのを見ました。その感動から子供たちの夢は、仕事をするようになつても「ずっとサッカーを続けてみたい」ということだそうです。

当クラブが目指す生涯スポーツに親しむ環境づくりがまさにそこにあり、これから富山県民、子供たちの為にも是非実現を希望致します。スポーツを通じて得られる心の潤いや感動は本当に素晴らしいと改めて感じました。ストレス社会と言われる今日に欠かせないと思いま



甲子園大会の決勝を観戦しました。佐賀北高校の逆転満塁ホームランにつながる最初のヒットを打ったのは久保投手。ゴロが三遊間を抜けると、走りながら声を上げ、ガッツポーズをしました。敗色濃厚な場面の単打にしては大きめな喜び方に思えましたが、「せめて1点とりたい」「あと1本ヒットが打ちたい」という気持ちが強かったのでしょう。劇的な結末に驚きながら、舞台の大小や試合の勝敗を超えた球児の純粋さに、勝利の女神がほほ笑んだような気がしました。

今回、チューリップテレビさんから広告をいただきました。ありがとうございます。「スポ天君」は、富山のスポーツを盛り上げるために奮闘しておられます。頼もしい応援を得て、TSCも頑張っていきます!

## INFORMATION

■中越沖地震義援金を受け付けています。振込先は下記のとおりです。

振り込まれる場合は、必ず「振込人名」と最後に「ギエンキン」と入力ください。

銀行名:にいかわ信用金庫 本町支店

口座名:特定非営利活動法人富山スポーツコミュニケーションズ 理事長 佐伯仁史

口座番号:普通 0105329

\*振り込まれた金額は一定期間後、県内メディアを通じて送られ、後日領収書をHP掲載いたします。

また現在、振り込まれた方の氏名(カタカナまたは漢字)、全体合計金額をHPにて掲載いたしております。ご了承ください。8月21日現在、9名様より52,000円集まっております。

■Jリーグ観戦ツアー

8月25日 浦和レッズvsFC東京(埼玉スタジアム)

11月24日 浦和レッズvs鹿島アントラーズ(ホーム最終戦・埼玉スタジアム)

\*11月24日は、すでにほぼチケット完売しております。40名になりしだいと切れますので、お早めにお申し込み下さい。 090-5176-0075(TSC事務局)

# 広告募集中!

詳細は下記事務局までお問い合わせ下さい。

各種コースで楽しんで汗をかきませんか?

### 開設コース

分類	開設コース	対象	回数
競技指向型 ステップアップ型	U-12 かなりプラスα レッスン	12歳以下	週1~2回
	U-15 プラスワンスクール	中学生	月3回
	U-18 スクール	高校生	週1~2回
	本気でフットサル	高校生以上	週2回
	ゴールキーパー 特別レッスン	小学生以上	月2回
	スーパーレフリースクール	中学生以上	月2回
健康促進型 地域お楽しみ型	UP30 フューチャーズ	30歳前後以上	月2回
	おんなんの子のサッカー	女子	月3回
	パワーヨガ教室	FREE	月4回
	サッカーを知ろう!ルール・戦術を観戦ナビから	大学生以上	月2回

参加申込: 氏名・電話番号・参加希望コースを添え直接TSCへお申込ください。  
携帯090-5176-0075 TEL/FAX 439-9277



NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ

事務局

〒930-0818 富山市奥田町 12-41-203

Tel.Fax.076-439-9277

E-mail (pc) [hi104fc@mbm.nifty.com](mailto:hi104fc@mbm.nifty.com)

URL <http://www.toyama-sc.net>

Vol.3 発行日: 2008年8月1日

[発行日] 年3回(11月・3月・7月)

[発行] NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ

[発行人] 佐伯仁史

[編集人] 赤壁逸朗

グラフライフが心とからだと暮らしを変える